

三二八九番

みは佩かしを 剣つるぎの池いけの 蓮はちすば葉はに 溜たまれる水みづの  
 行ゆくへなみ 我あがする時ときに 逢あふべしと 逢あひた  
 る君きみを な寝いねそと 母はは聞きこせども 我あが心こころ  
 清隅きよすみの池いけの 池いけの底そこ 我あれは忘わすれじ 直ただに逢あふまで  
 に

反はん歌か

三二九〇番

古いにしへの 神かみの時ときより 逢あひけらし 今いまの心こころも  
 常つね忘わすれえず